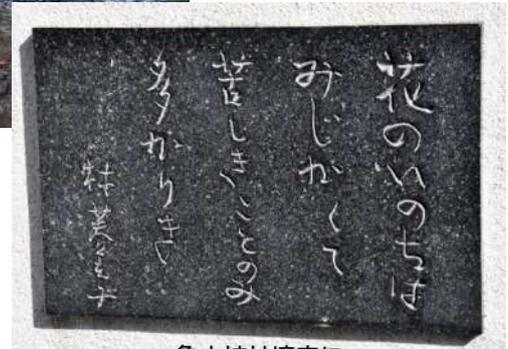


林芙美子生誕地



亀山神社境内に

「花のいのちはみじかくて、苦しきことのみ多かりき」、あふれる詩情でベスト・セラー作品を発表し、円熟のさなか、四十歳代半ばで急逝した林芙美子は明治36年下関に生まれました。

「私は宿命的に放浪者である。私が生まれたのはその下関の町である。」出世作『放浪記』の冒頭の、有名な文章です。

誕生の碑は田中町の五穀神社境内に、右上の詩碑は亀山八幡宮の境内に、そして、「元気な子」の一文が刻まれた記念碑は名池小学校の一角にあります。